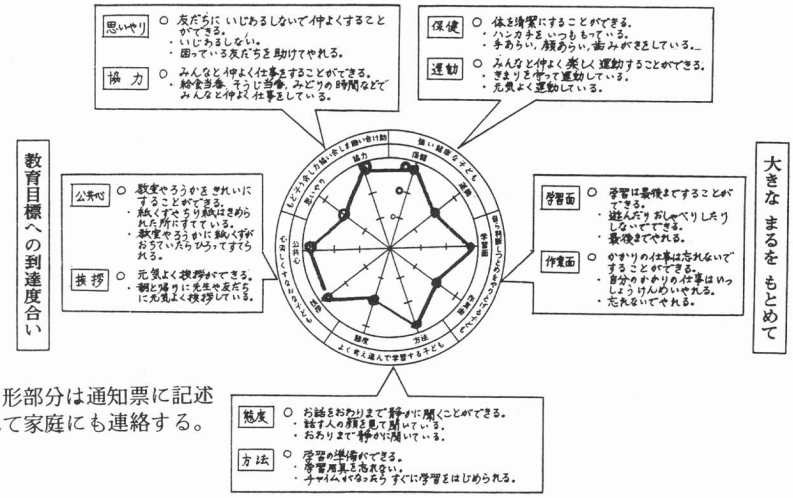
◦　到達のめあてと評価の観点　（１年の例）

A 小 学 校　こんな子どもに　1年氏名（　　）							
教育目標		学年・具体目標	到 達 の め あ て	観　　点	学期 1	学期 2	学期 3
1	強い健康な子ども	衛生に気をつけ元気に遊べる子	◦体を清潔にする（保健）	・いつもハンカチを持っている ・手洗い，顔洗い，歯を磨いている			
			◦仲よく楽しく運動できる（運動）	・きまりを守って運動している ・元気よく運動している			
2	自ら判断しやりとげる子ども	しんぼう強くがんばる子ども	◦学習を最後までする（学習）	・あそんだり，おしゃべりしないでできる ・最後まであきないでできる			
			◦係りの仕事をきちんとする（作業）	・しんけんに仕事ができる ・続けて忘れないでできる			

◦　評価票　（１年の例）



※円形部分は通知票に記述されて家庭にも連絡する。

(4)　むすび

教育目標達成の評価にあたっては，以上の実践例のように「到達のめあて」をできるだけ具体的に設定し，教師，児童生徒，保護者の三者で行っていくことが望まれる。その過程で，三者の教育目標への意識の高まりも期待できるのである。

また評価改善にあたっては，教師が一方的に目標を具体化するだけでなく，児童生徒が自分なりに特に努力したいことを自己目標として設定し，実施しながら自己評価も行うようにすれば，より効果的と思われる。さらに，情意面の評価基準の改善，評価結果のプロフィールの型に応じた対応策の設定がなされれば，より理想的な評価となろう。ともあれ，学校独自のアイデアを生かし，計画（P）―実施（D）―評価（S）の過程をふまえながら目標達成の実現と，次への改善を図るよう志向していかなければならないであろう。

◦　三者評価の集計（例）

昭和○○年度　学校全体の評価（評価者　学期ごと）

目標	学年	学期	評定者	◎	◎	○
1	全学年	1	自己	22.3	58.4	19.3
			教師	20.6	64.8	14.6
			家庭	25.8	48.2	26.0
		2	自己	29.2	56.3	14.5
			教師	24.8	45.1	30.1
			家庭	28.4	51.5	19.1